

# 概要

## 《 新公立病院改革ガイドラインに基づく新公立病院改革プランについて 》

### 1. 病院の現状

病 院 名：市立池田病院

現在の経営形態：地方公営企業法全部適用

病 床 数：364床（病床種別：一般、病床機能：急性期）

診療科目：23科

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科

### 2. 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

#### (1) 地域医療構想を踏まえた病院の果たすべき役割

- ・地域医療支援病院として地域医療の中核を担い、病診連携あるいは病病連携の基幹病院として機能
- ・二次救急医療機関として積極的に救急搬送患者を受け入れ、急性期医療を担う病院として機能 → 将来的には高度急性期医療を担う病院を目標
- ・今後の医療ニーズを的確に捉え、必要とされる医療を提供 → 政策医療の担い手
- ・不足する回復期や慢性期の機能を補完するため、当院が中心となって在宅医療や介護との連携を進め、急性期から回復期、慢性期へ患者を円滑に移行させる体制づくり

#### (2) 平成37年（2025年）における病院の具体的な将来像

- ・急性期医療を提供する地域の基幹病院
- ・総合病院としての診療体制を維持しつつ、呼吸器疾患や循環器疾患など医療ニーズの高い分野での機能充実

#### (3) 地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割

- ・地域医療支援病院として地域の診療所と連携を強化 → 紹介・逆紹介の推進
- ・機能分化を進め、地域の診療所が担う在宅医療を後方支援→ 緊急時の受入

#### (4) 住民の理解のための取り組み

- ・機能分化に対する患者理解の促進
- ・紹介・逆紹介の推進に対する協力

### 3. 経営の効率化

#### (1) 経常収支比率に係る目標設定の考え方

- ・平成32年度における医業収支の単年度黒字を目標
- ・急性期病院として特に入院機能を強化し、入院単価6万円を目標
- ・外来から入院へシフトするとともに、特殊外来の機能強化 → 外来化学療法等

#### (2) 目標達成に向けた具体的な取り組み

- ・急性期病院として相応しい入院単価の確保
- ・施設基準の確認や診療報酬加算要件の確認により、無駄のない診療報酬算定
- ・必要となる人件費は適切に確保しながら、収益性を向上
- ・業務の効率化による不要な人件費の抑制

### 4. 再編・ネットワーク化

#### (1) 病院の状況

- ・大阪府地域医療構想において、豊能構想区域（豊能二次医療圏）においては、急性期病床は若干ながら不足するとされており、急性期病院としての医療機能は維持
- ・不足するとされている回復期及び慢性期の機能を補うため、地域の診療所と連携した医療連携を推進

#### (2) 二次医療または構想区域内の病院等配置の現況

- ・豊能構想区域は4市2町で構成されるが、そのうち4市が公立病院を設置
- ・池田市の医療需要は基本的に池田市内で充足しているとの認識
- ・池田市内には3つの病院が開院
- ・3病院とも急性期病院として運営

#### (3) 病院に係る再編・ネットワーク化計画の概要

- ・現状では具体的な計画はなし
- ・市内の病院と病院間の機能分化を検討し、連携を進めることについて調査

### 5. 経営形態の見直し

- ・現状の経営形態は、地方公営企業全部適用での運営
- ・地方独立行政法人化や指定管理者制度の導入については以前に調査、検討
- ・経営形態の変更に大幅なメリットがないとの当時の見解

### 6. その他

- ・地理的な観点から、兵庫県川西市の医療需要を検討する必要性
- ・豊能町や能勢町の医療需要をいかに取り込むか
- ・超高齢化社会に向け、診療報酬改定は増加傾向にはなく、必要とされる医療を的確に捉え、単価の高い患者をいかに多く受け入れられるか